

全国人気温泉地ランキング ベスト50

順位	温泉地名	都道府県	票数	昨年順位
第1位	箱根温泉	神奈川県	951	→ 1
2	草津温泉	群馬県	746	↑ 3
3	由布院温泉	大分県	712	↓ 2
4	別府温泉郷	大分県	664	↑ 5
5	登別温泉	北海道	660	↓ 4
6	道後温泉	愛媛県	515	↑ 7
7	指宿温泉	鹿児島県	467	↑ 8
8	黒川温泉	熊本県	411	↓ 6
9	有馬温泉	兵庫県	401	→ 9
10	城崎温泉	兵庫県	363	↑ 12
11	乳頭温泉郷・田沢湖高原温泉※	秋田県	353	↑ 13
12	下呂温泉	岐阜県	344	↓ 10
13	熱海温泉	静岡県	326	↑ 18
14	奥飛騨温泉郷	岐阜県	312	↓ 11
15	洞爺湖温泉	北海道	300	↑ 16
16	霧島温泉	鹿児島県	299	↓ 14
17	定山渓温泉	北海道	280	↓ 15
17	和倉温泉	石川県	280	↑ 21
19	湯の川温泉	北海道	274	↑ 20
20	鬼怒川温泉	栃木県	266	↓ 17
21	層雲峡温泉	北海道	243	↑ 25
22	山形蔵王温泉	山形県	230	↑ 24
23	加賀温泉郷	石川県	229	—
24	雲仙温泉	長崎県	217	↑ 26
25	阿寒湖温泉	北海道	213	↑ 27
26	ニセコ温泉郷	北海道	199	↑ 27
26	伊香保温泉	群馬県	199	↓ 23
26	白浜温泉	和歌山県	199	↓ 19
29	嬉野温泉	佐賀県	196	↓ 27
30	白骨温泉	長野県	189	↓ 22
31	鳴子温泉郷	宮城県	184	↑ 32
32	万座温泉	群馬県	182	↑ 35
33	十勝川温泉	北海道	181	↑ 39
34	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	180	↑ 37
35	飛騨高山温泉	岐阜県	179	↓ 31
36	玉造温泉	島根県	174	→ 36
37	秋保温泉	宮城県	170	↓ 30
38	野沢温泉	長野県	163	↓ 33
39	十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉※	青森県	160	↓ 38
40	修善寺温泉	静岡県	145	↓ 34
41	那須温泉	栃木県	143	↑ 44
41	湯河原温泉	神奈川県	143	↓ 40
43	四万温泉	群馬県	135	↓ 41
44	花巻温泉郷	岩手県	132	↓ 42
45	日光湯元温泉	栃木県	129	↑ 47
46	勝浦・串本・すさみの温泉	和歌山県	119	↓ 45
47	ウトロ温泉	北海道	114	↑ 54
48	宇奈月温泉	富山県	109	↑ 55
48	三朝温泉	鳥取県	109	↑ 49
50	川湯温泉	北海道	107	↑ 53
50	湯田中渋温泉郷	長野県	107	↑ 63

※今年から新設もしくは名称変更した温泉地も一部ある

分析 箱根温泉は不動の1位
草津温泉が初めての2位に

これまで行ったことがある温泉地のうち「もう一度行ってみたい」温泉地を選ぶ「全国人気温泉地ランキング」。本部門では、「箱根温泉」が8年連続不動の1位。一方、7年連続2位の「由布院温泉」をおさえ、「草津温泉」が初の2位に。このほか、「熱海温泉」(+5ランク)。「十勝川温泉」(+6ランク)、「湯田中渋温泉郷」(+13ランク)などが躍進した。

発表!

じゃらん
人気温泉地ランキング
2014

詳細分析
選ばれる温泉地

じゃらんリサーチセンターでは、『じゃらんnet』会員および『じゃらんnet』を利用した全国約5000人超の旅行者を対象に「じゃらん人気温泉地ランキング2014」を実施。その結果から、今、選ばれる温泉地に求められるものを読み解きたい。

撮影/佐藤兼永 (P20~P21)

主要3部門で1位は不動
「満足度」部門には大きな変化

本年度で8回目の実施となる「じゃらん人気温泉地ランキング」。まずは、今回のランキング結果の概観をご紹介します。

「全国人気温泉地ランキング」では、「箱根温泉」(神奈川県)が、8年連続の首位に。「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」でも「箱根温泉」が、昨年同様トップとなった。「全国あこがれ温泉地ランキング」では、「由布院温泉」(大

分県)が昨年に引き続き1位に。これらの3部門では首位が磐石の強さを見せつける結果となった。一方、ランキングに変動があった部門もある。「全国温泉地満足度ランキング」総合部門では、「南阿蘇温泉郷」(熊本県)が、昨年

度の12位から首位にジャンプアップ。秘湯部門では昨年度はランキング対象外だった「湯西川温泉」(栃木県)が100%の満足度で1位となった。各部門の詳細については、左記のランキングおよび分析にて触れていきたい。



全国温泉地満足度ランキング 総合部門 (1年間の訪問者50人以上)

順位	温泉地名 都道府県	満足者の 割合 (%)	集計 対象数 (人)
第1位	南阿蘇温泉郷 熊本	95.1	102
2	万座温泉 群馬	95.0	100
3	ニセコ温泉郷 北海道	94.7	152
4	山鹿・平山温泉 熊本	94.5	91
5	奥飛騨温泉郷 岐阜	93.5	200
6	霧島温泉 鹿児島	93.5	170
7	雲仙温泉 長崎	93.4	121
8	八幡平温泉郷 岩手	92.6	68
9	草津温泉 群馬	92.3	339
10	ウトロ温泉 北海道	92.1	76
10	支笏湖温泉 北海道	92.1	101

全国温泉地満足度ランキング 秘湯部門 (1年間の訪問者30人以上50人未満)

順位	温泉地名 都道府県	満足者の 割合 (%)	集計 対象数 (人)
第1位	湯西川温泉 栃木	100.0	41
2	龍神温泉 和歌山	97.1	35
3	高湯温泉 福島	94.7	38
4	上高地温泉 長野	94.1	34
5	湯野浜温泉 山形	93.8	48
6	わいた温泉郷 熊本	93.5	46
7	小田・田の原・満願寺温泉 熊本	93.3	30
8	銀山温泉 山形	92.5	40
9	穂高温泉郷 長野	92.3	39
10	人吉温泉 熊本	90.2	41

分析 総合1位は南阿蘇温泉郷 秘湯部門では湯西川温泉

最近1年間に行ったことがある温泉のうち「満足した」温泉地を調査する「全国温泉地満足度ランキング」。総合部門 (1年間の訪問者50人以上) では「南阿蘇温泉郷」(昨年12位) がトップ。2位「万座温泉」、3位「ニセコ温泉郷」という結果に。秘湯部門 (1年間の訪問者30人以上50人未満※昨年度調査から変更あり) では、湯西川温泉がランク外から首位に。

全国あこがれ 温泉地ランキングベスト10 (複数回答5つまで)

順位	温泉地名 都道府県	票数	昨年 順位
第1位	由布院温泉 大分	1217	→ 1
2	草津温泉 群馬	781	↑ 4
3	乳頭温泉郷・田沢湖高原温泉 秋田	678	→ 3
4	指宿温泉 鹿児島	677	↑ 5
5	別府温泉郷 大分	639	↑ 6
6	登別温泉 北海道	629	↓ 2
7	黒川温泉 熊本	532	↑ 9
8	道後温泉 愛媛	529	→ 8
9	下呂温泉 岐阜	477	↑ 10
10	箱根温泉 神奈川県	465	↓ 7

分析 1位は変わらず由布院温泉 2位には昨年4位の草津温泉

まだ行ったことはないが、一度入ってみたい温泉地を調査する「全国あこがれ温泉地ランキング」では、昨年と変わらず「由布院温泉」が1位に。昨年から2ランクアップした「草津温泉」が2位。このほか4位「指宿温泉」と5位「別府温泉郷」もそれぞれ1ランクアップ。トップ5のうち3つが九州の温泉地となり、「九州へのあこがれ」が浮き彫りとなった。

全国温泉地1年間の 訪問経験ランキング ベスト10

順位	温泉地名 都道府県	票数	昨年 順位
第1位	箱根温泉 神奈川県	676	→ 1
2	熱海温泉 静岡県	369	↑ 3
3	別府温泉郷 大分	344	↓ 2
4	草津温泉 群馬	339	→ 4
5	由布院温泉 大分	332	→ 5
6	定山溪温泉 北海道	302	→ 6
7	有馬温泉 兵庫	283	→ 7
8	道後温泉 愛媛	274	→ 8
9	登別温泉 北海道	263	→ 9
10	下呂温泉 岐阜	255	→ 10

分析 熱海温泉が別府温泉郷をおさえ2位 東日本の温泉地の躍進が目立つ

最近1年間に行ったことがある温泉地を選択する「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」では、「箱根温泉」が不動の首位。昨年3位の「熱海温泉」は「別府温泉郷」と入れ替わり、2位。10位圏外だが、昨年16位から12位になった「伊東温泉・宇佐見温泉」にも注目したい。このほか、「湯の川温泉」(+9ランク)、「ニセコ温泉郷」(+9ランク) など、北海道の温泉地のランクアップも目立つ。

じゃらん人気温泉地ランキング2014 調査概要と回答者プロフィール

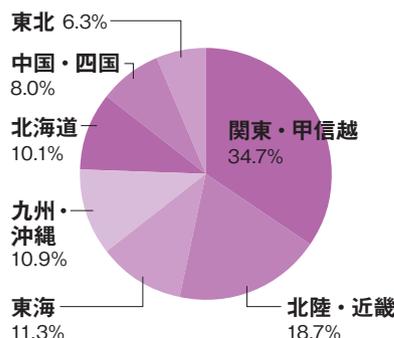
調査概要と 回答者 プロフィール

- 調査時期: 2013年9月2日(月) ~ 2013年9月18日(水) / 2013年10月15日(火) ~ 2013年10月31日(木)
- 調査対象: 「じゃらんnet」会員または「じゃらんnet」予約者
- 調査方法: インターネット上でのアンケートを実施
- 回収数: 5,013人
- 有効回答数: 5,013人
- 対象温泉: 計331の温泉地を選択肢として設定

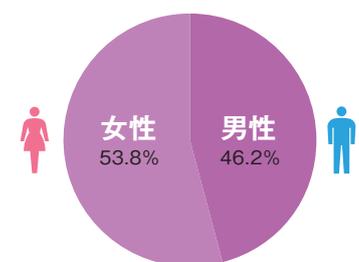
※詳細はこちらを参照

http://jrc.jalan.net/jrc/files/research/2014onsenrank_20131212.pdf

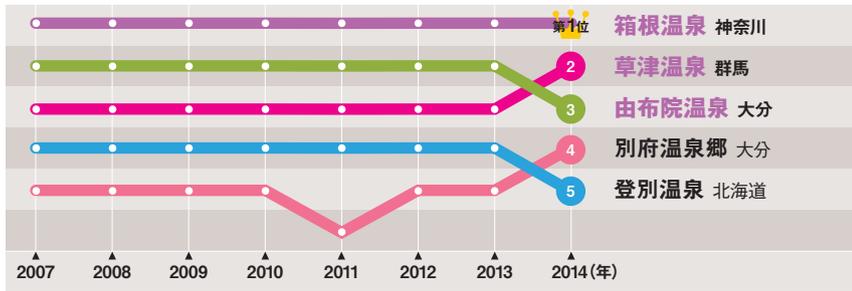
回答者・居住地域 n=5,013



性別 n=5,013



① 7年連続不動のトップ3に変化が!



注目すべき 5つのファクト

今回は「全国人気温泉地ランキング」の結果をより詳しく分析してみたい。
男女別の傾向や温泉地の選択理由、居住地域や年代別の傾向……など、5つの異なる切り口から、今回のランキングを象徴する5つのファクトとは。

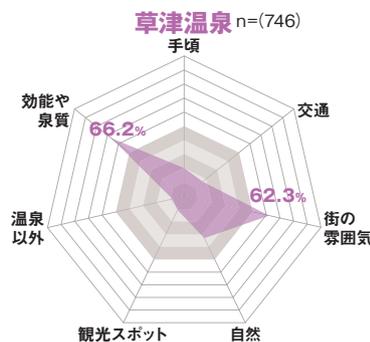
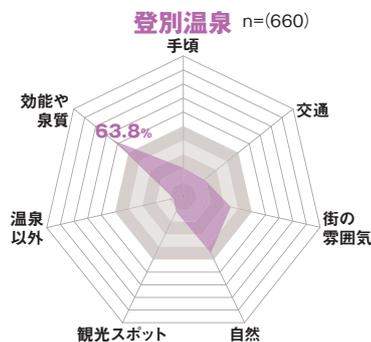
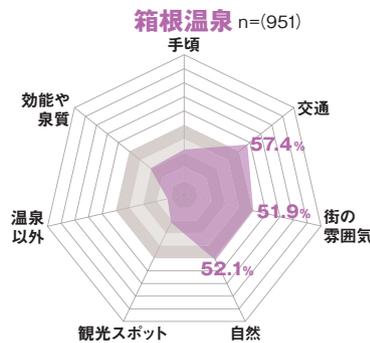
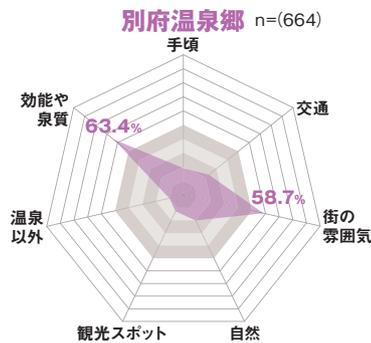
分析 草津温泉が2位に浮上 別府温泉郷も躍進する

調査開始以来7年不動だったトップ3の順位が入れ替わったことが最大のニュース。昨年度の調査では2位の「由布院温泉」と3位の「草津温泉」には160票以上の差があったが、今回は「草津温泉」(746票)、「由布院温泉」(712票)。続く「別府温泉郷」(664票)も4位に食い込む結果に。



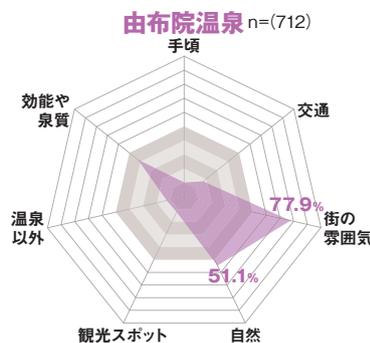
② 突出した強みを持つ温泉地が 訪問者のハートを掴む!?

手頃…手頃な料金で行けるから 交通…交通の便が良いから 街の雰囲気…街の雰囲気が好きだから
自然…自然に囲まれているから 観光スポット…周辺の観光スポットが充実しているから
温泉以外…温泉以外にも楽しめるから 効能や泉質…温泉の効能や泉質が気に入っているから



分析 バランス型の箱根温泉が強さを見せる。泉質は草津温泉、雰囲気は由布院温泉がトップ

上位5温泉地の選択理由を分析すると、「交通」や「自然」をはじめ、各項目でバランス良く高評価を得た「箱根温泉」の強さが際立つ。一方、「草津温泉」は「効能や泉質」への評価が5温泉地中トップ。3位の「由布院温泉」は「街の雰囲気」が77.9%を記録。



③ 男女で異なる人気温泉地

順位	温泉地名	都道府県	票数	昨年順位
第1位	箱根温泉	神奈川県	406	→ 1
2	草津温泉	群馬県	366	→ 2
3	登別温泉	北海道	320	↑ 4
4	由布院温泉	大分県	296	↓ 3
5	別府温泉郷	大分県	282	→ 5
6	道後温泉	愛媛県	265	→ 6
7	指宿温泉	鹿児島県	221	→ 7
8	奥飛騨温泉郷	岐阜県	187	↑ 10
9	乳頭温泉郷・田沢湖高原温泉	秋田県	184	↑ 13
10	城崎温泉	兵庫県	178	↑ 12
第1位	箱根温泉	神奈川県	545	→ 1
2	由布院温泉	大分県	416	→ 2
3	別府温泉郷	大分県	382	↑ 4
4	草津温泉	群馬県	380	↓ 3
5	登別温泉	北海道	340	→ 5
6	黒川温泉	熊本県	257	→ 6
7	道後温泉	愛媛県	250	↑ 9
8	指宿温泉	鹿児島県	246	↓ 7
9	有馬温泉	兵庫県	237	↓ 8
10	城崎温泉	兵庫県	185	↑ 11

男性 (n=2,315) 女性 (n=2,698)

分析 男性は泉質を重視!? 女性は九州勢が人気

性別のランキングでは男女ともに「箱根温泉」が1位に。一方、2位以下は男女別で大きく異なり、男性は2位「草津温泉」、3位「登別温泉」と、左記選択理由の項で「効能や泉質」に高い評価を得る温泉地がランクイン。女性は2位「由布院温泉」、3位「別府温泉郷」と、「街の雰囲気」への評価が高い九州勢の躍進が目立つ結果となっていた。

④ 関東・甲信越居住者の東日本志向が強まる

関東・甲信越居住者が「もう一度行ってみたい」温泉地

2013年データ

(n=3,258)

順位	温泉地名/都道府県	票数
第1位	箱根温泉 神奈川県	987
2	草津温泉 群馬	807
3	由布院温泉 大分	346
4	登別温泉 北海道	297
5	鬼怒川温泉 栃木	293

2014年データ

(n=1,742)

順位	温泉地名 都道府県	票数
第1位	箱根温泉 神奈川県	564
2	草津温泉 群馬	458
3	乳頭温泉郷・田沢湖高原温泉 秋田	169
4	鬼怒川温泉 栃木	162
5	熱海温泉 静岡	161

根強い人気の九州勢と勢いのある関東勢

今回で8回目となる「全国人気温泉地ランキング」は、「箱根温泉」の知名度と人気の高さがあらためて浮き彫りとなる結果となった。

一方、調査開始以来7回連続不動だったトップ3に変化が表れたことも、特筆すべき事実。昨年ま

分析 由布院温泉と登別温泉が姿を消し 東日本の温泉がランクイン

居住地域別の調査結果で、顕著な変化が出ていたのが「関東・甲信越居住者」のトップ5。ここでは、昨年トップ5に名を連ねていた「由布院温泉」と「登別温泉」が姿を消し、代わりに「乳頭温泉郷・田沢湖高原温泉」と「熱海温泉」がトップ5に。東日本の温泉がトップ5を独占した。

⑤ 20代、30代、50代ともに 草津温泉がランクアップ

年代別じゃらん全国人気温泉地ランキング

2013年データ

年代	順位	温泉地名 都道府県	票数
20代 (n=1,248)	第1位	箱根温泉 神奈川県	278
	2	由布院温泉 大分	177
	3	別府温泉郷 大分	170
	4	草津温泉 群馬	164
	5	道後温泉 愛媛	132
30代 (n=2,425)	第1位	箱根温泉 神奈川県	437
	2	由布院温泉 大分	425
	3	草津温泉 群馬	354
	4	別府温泉郷 大分	333
	5	登別温泉 北海道	279
40代 (n=2,325)	第1位	箱根温泉 神奈川県	405
	2	由布院温泉 大分	383
	3	登別温泉 北海道	343
	4	草津温泉 群馬	325
	5	別府温泉郷 大分	297
50代 (n=1,854)	第1位	箱根温泉 神奈川県	339
	2	登別温泉 北海道	280
	3	由布院温泉 大分	274
	4	草津温泉 群馬	248
	5	別府温泉郷 大分	219
60代 (n=720)	第1位	箱根温泉 神奈川県	339
	2	草津温泉 群馬	280
	3	登別温泉 北海道	274
	4	由布院温泉 大分	248
	5	別府温泉郷 大分	219

2014年データ

年代	順位	温泉地名 都道府県	票数
20代 (n=463)	第1位	箱根温泉 神奈川県	104
	2	草津温泉 群馬	66
	3	由布院温泉 大分	63
	4	別府温泉郷 大分	61
	5	熱海温泉 静岡	41
30代 (n=1,013)	第1位	箱根温泉 神奈川県	208
	2	草津温泉 群馬	142
	3	由布院温泉 大分	142
	4	別府温泉郷 大分	131
	5	黒川温泉 熊本	104
40代 (n=1,473)	第1位	箱根温泉 神奈川県	208
	2	由布院温泉 大分	142
	3	登別温泉 北海道	142
	4	草津温泉 群馬	131
	5	別府温泉郷 大分	104
50代 (n=1,297)	第1位	箱根温泉 神奈川県	223
	2	登別温泉 北海道	198
	3	草津温泉 群馬	195
	4	由布院温泉 大分	189
	5	別府温泉郷 大分	175
60代 (n=657)	第1位	箱根温泉 神奈川県	223
	2	草津温泉 群馬	198
	3	登別温泉 北海道	195
	4	別府温泉郷 大分	189
	5	由布院温泉 大分	175

分析 すべての年代で箱根温泉が1位 草津温泉も各年代で高評価

年代別ランキングでは、どの年代も「箱根温泉」が1位だ。一方、注目したいのが、20代、30代、50代でそれぞれランクアップした「草津温泉」。「草津温泉」は、40代、60代のランキングにおいても、前年調査時の高評価を維持しており、全年代で高く評価されていることがわかる。

で3位が定位置だった「草津温泉」の2位浮上の背景を物語るのが図④の関東・甲信越居住者による投票結果と図⑤の年代別ランキングの結果だろう。

たとえば、今回の調査で「関東・甲信越居住者」の占める割合は34.7%。全居住地域中トップのポリウムとなっている。この「関東・甲信越居住者」の関東・東北

の温泉地の票数が伸びたことは、「草津温泉」の躍進にとっても大きな意味を持ったといえる。

年代別ランキングでも「草津温泉」は20代・30代・50代のそれぞれでランクアップ。40代・60代に関しても順位をキープ。図②の温泉地の選択理由の「効能や泉質」の項目で高い評価を得ていることと併せて考えれば、名湯の誉れ高

い「草津温泉」の泉質への信頼が、年代を問わず評価されたと考えられるべきかもしれない。

このほか、年代別ランキングでは、20代部門で「熱海温泉」が新たに5位にランクイン。全体を通じて、「由布院温泉」や「別府温泉郷」など根強い人気を有する九州の温泉地に関東勢が迫る展開が印象的な調査結果となった。

現場レポート!

じゃらん
人気温泉地
ランキング
2014
初の2位!

草津温泉

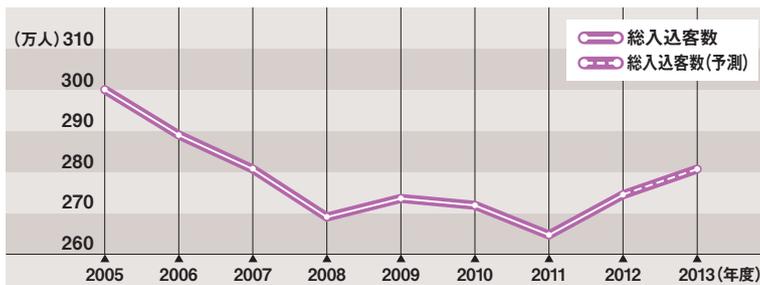
躍進の草津温泉に学ぶ 「効く」取り組みとは

調査開始以来、初めてトップ3が変動した今回の「人気温泉地ランキング」。「由布院温泉」を僅差でかわし、初の2位になった「草津温泉」ではここ数年、いったいどんな取り組みや変化があったのだろうか。「草津温泉」の今にみる、選ばれる温泉の条件とは。



今回お話を伺ったのは「一般社団法人 草津温泉観光協会」企画・宣伝課長の富岡忠幸さん

年度別 草津町入込客数の変化



※2013年度は未集計のため予測値

2005年の年間約300万人をピークに、草津町への入込客数は減少を続けていたが2008年以降は微増微減。2011年以降は回復傾向にある。現在は、300万人の水準を目標に、数々の施策を行っている。

古くから天下の名湯として知られる草津温泉が、今、大きく変化している。たとえば、草津温泉のシンボル「湯畑」周辺では、大規模な再開発プロジェクトが進行中。2013年4月に再建された「御座之湯」を筆頭に、2014年春には「湯路広場」が登場。2015年には「湯もみショー」の舞台として有名な「熱の湯」もリニューアル予定だ。

「構想自体は以前からあったのですが、計画が加速度的に進み始めたのは2011年頃。震災後の危機感から『このままではいけない』と奮起した住民たちが、黒岩信忠町長をリーダーとして、ひとつの方向を向き始めたのです」とは、草津温泉観光協会 企画・宣伝課

泉質への一貫した信頼と 官民一体の「攻め」の戦略



草津温泉の取り組み事例

単年度で終わらない 長期的なランドデザイン

「100年後に文化財になっていること」を目指して2013年に再建された「御座之湯」をはじめ、2013年に開始した「西の河原公園整備事業」、2014年に登場予定の「湯路広場」、2015年に再生される「熱の湯」など、現在草津温泉では、数多くの再生・再開発プロジェクトが進行している。「単年度で終わる施策だけでなく、長期的・継続的な草津温泉のビジョンを発信することは、ニュースバリューを高め、観光客に期待を持ってもらえる要因のひとつだと思います」（富岡さん）



「単年度で終わる施策だけでなく、長期的・継続的な草津温泉のビジョンを発信することは、ニュースバリューを高め、観光客に期待を持ってもらえる要因のひとつだと思います」（富岡さん）

合い言葉は「泉質主義」 骨太なコンセプトを貫く

毎分3万2300リットルと日本一の自然湧出量を誇り、日本有数の強酸性の温泉を有する草津温泉。この町が「泉質主義」を宣言したのは、2001年のこと。以来、13年間変わらないこのコンセプトは、草津温泉のまちづくりにとって北極星のような指針になっているという。今回の「全国人気温泉地ランキング」で草津温泉は男性から多くの支持を集めたが、「泉質主義」という骨太な言葉が、PRやブランディングにおいても、大きな役割を果たしているといえる。



男性から多くの支持を集めたが、「泉質主義」という骨太な言葉が、PRやブランディングにおいても、大きな役割を果たしているといえる。

官民が一体となって 温泉地の未来を見据える

行政や観光事業者、町民が一体となって観光客誘致に関わる草津温泉。古くから地域での連携はあったが、特に結束が強くなったのが2010年の黒岩信忠町長就任以降だという。「若い方の意見を積極的に取り入れる黒岩町長のリーダーシップもあり、現在の草津には、良いことも悪いことも徹底的に議論する雰囲気があります。お互いに意見を交わしあうけれど、決まったことにはみんなで一丸となって取り組む。それが、現在の草津温泉の強みなのかもしれません」（富岡さん）



「若い方の意見を積極的に取り入れる黒岩町長のリーダーシップもあり、現在の草津には、良いことも悪いことも徹底的に議論する雰囲気があります。お互いに意見を交わしあうけれど、決まったことにはみんなで一丸となって取り組む。それが、現在の草津温泉の強みなのかもしれません」（富岡さん）

メディアやイベントを通じて 温泉の楽しみ方を提案

昭和30年代から続く「湯もみショー」をはじめ、2009年に「熱の湯」で365日行われる寄席としてスタートした「温泉らくご」、キャンドルイベント「夢の灯り」など、温泉街に出たくなるようなイベントを継続的に開催。また、映画「テルマエ・ロマエ2」などのメディアへの露出も、若者層から支持を集める大きな理由のひとつ。「観光協会はメディアへの窓口の役割も担います。各メディアの企画意図をくみ取り、常に新しい情報を提供することを心掛けています」（富岡さん）



「観光協会はメディアへの窓口の役割も担います。各メディアの企画意図をくみ取り、常に新しい情報を提供することを心掛けています」（富岡さん）

「草津は標高1200mの高地です。だから、アクセスも不便で、恵まれた食材もありません。私たちが自慢できるのは、毎分3万2300リットル自然湧出する温泉しかない。2001年に掲げられた「泉質主義」は、そんな我々の思いを端的に表すコンセプト。「泉質主義」という共通認識の上に、どう付加価値をつけられるかを常に考えています」（富岡さん）

13年間変わることなく貫かれる「泉質主義」と、変化を恐れない「攻め」の取り組みが、草津温泉の躍進を支える両輪なのだ。

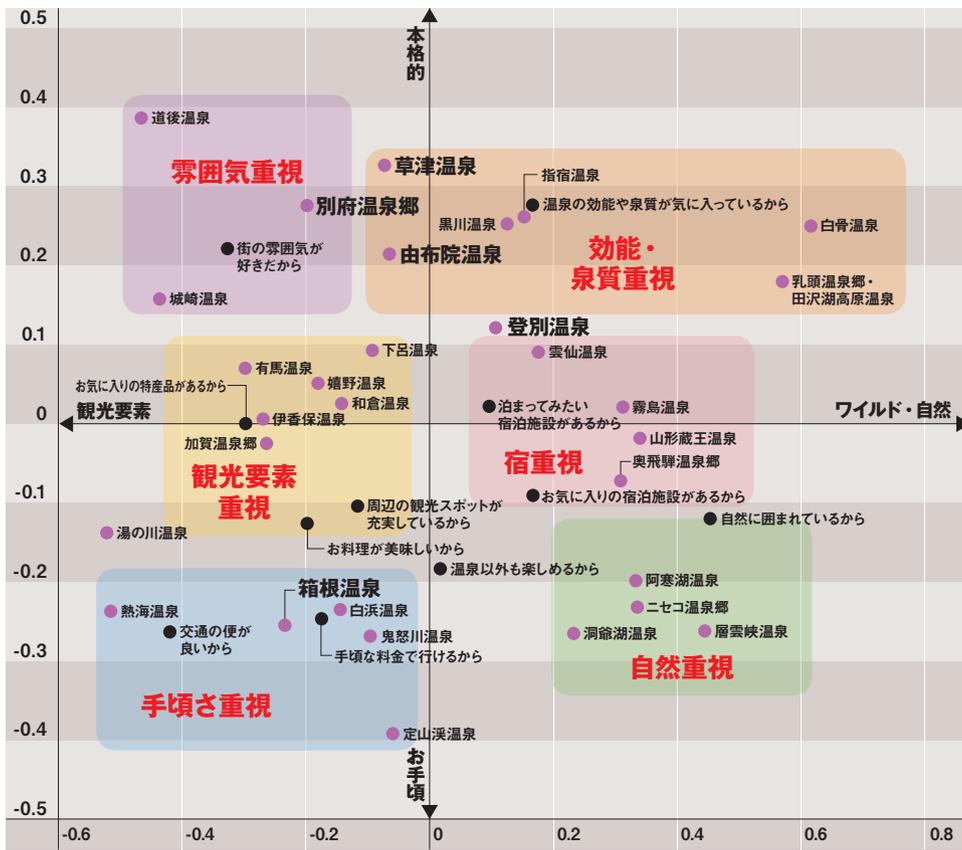
一方、今回の調査では、20代・30代を中心とする若者層から支持を集めた点も印象的だった。彼らを惹きつける草津の魅力とは何か。草津温泉観光協会が、草津温泉を訪れた15歳〜24歳100名を対象に行ったアンケートによると「草津温泉を旅行先に選んだ理由」のトップは「温泉がいいから（複数回答可59名）」。

「おてんま（地域の共同作業）で協力する誘客イベントや、商店や旅館、民家など町ぐるみで進める「景観まちづくり」など、ここ数年、官民一体の取り組みが盛んだという。

「長の富岡忠幸さん。多くの住民が」

人気温泉地ランキング上位30温泉地

「もう一度行きたい理由」コレスポネンス分析



「もう一度行きたい」温泉地上位30温泉地について、その理由を5つまで選んでもらったデータを基に、その回答傾向を分析。コレスポネンス分析という手法で、ポジショニングマップを作成した。回答者のイメージが近いものは近くに、遠いものは遠くに位置される分析方法で、必ずしもそのイメージ項目が高いことを意味するものではない。競合エリアとの差別化などを図る場合によく用いられる手法である。イメージ項目の分布から、横軸は「ワイルド・自然」⇔「観光要素」、縦軸は「本格的」⇔「お手頃」と解釈した。

考察

「もう一度行きたい」理由を詳細分析

選ばれる温泉地になる 戦略的ポータルフォリオ

選ばれる温泉地にはその理由がある。「もう一度行きたい」と思われるその理由から現在人気の温泉地に求められる要素を整理してみた。自地域の戦略ポータルフォリオ(※)を作る参考にさせていただきたい。
 ※ポータルフォリオ：金融・投資で使われる用語の一つで、異なる資産の構成やその組み合わせのことを指す

「雰囲気」「効能・泉質」の良い温泉地が人気

上の図は、「もう一度行きたい」上位30温泉地の理由のデータを基に、回答者のマインドマップを示したものである。イメージ項目の位置から、左上の象限を「雰囲気重視」、右上の象限を「効能・泉質重視」、続いて下へ「宿重視」「自然重視」となり、左下の象限には「手頃さ重視」「観光要素重視」と解釈している。「もう一度行きたい」と思われる上位の温泉地にはおおむねこのような要素が求められているようだ。中でもランキング5位までに入る温泉地について見てみると、「箱根温泉」は「手頃さ重視」に位置しているが、「草津温泉」「由布院温泉」「別府温泉郷」などは「効能・泉質重視」「雰囲気重視」に位置しており、いわ

ゆる一般的な良い温泉地とはこれらの要素を備えた温泉地を指すと思われる。当然これらのジャンルに位置する温泉地は競争率が高いことが予測される。

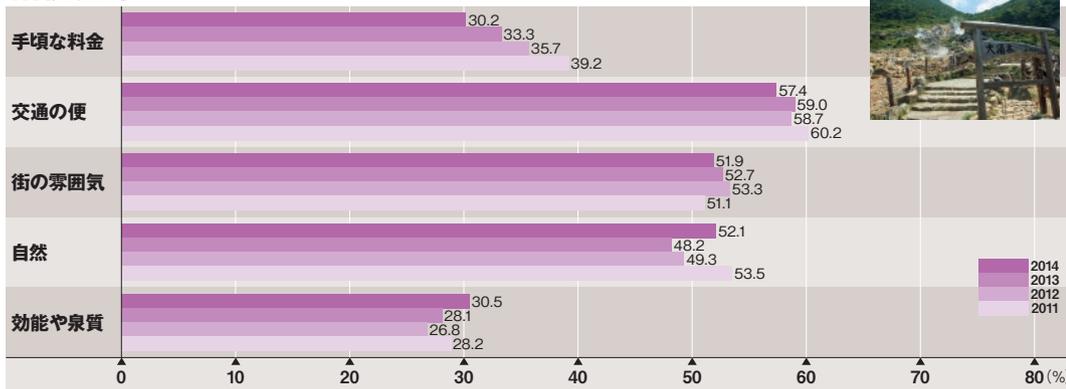
この旅行者にとっての温泉地マインドマップは、自エリアの競合優位性の確認やマーケティング戦略を立てるのに役立つだろう。まず自エリアの強みを認識し、このマップの中でポジショニングは現状どこか、また今後狙うのであればどこなのかを検討するのにお役立ていただきたい。

温泉地の選択理由は「お手頃さ」↓「効能」や「泉質」重視に

ちなみに、これらの温泉地のうち、上位3温泉地について、その選ばれた理由を時系列で追ったのが左ページの図である。選択理由として上位に挙がる5項目について2011年より比較してみる。1位の箱根温泉は「交通の便」が最も高いのだが、この数値は2011年から比べると徐々に下がっていることがわかる。一方、数値は低いものの「効能や泉質」は年々その選択率が高まってきている。2位の草津温泉に関しては、「効能や泉質」がトップで66%。もと

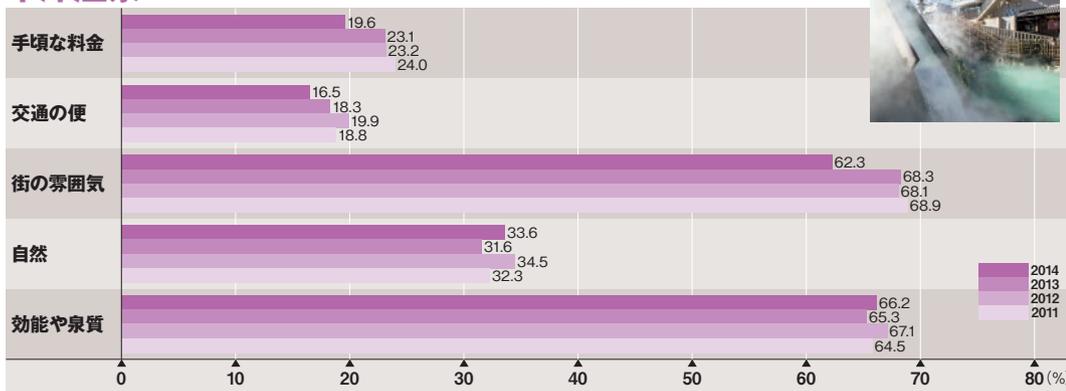
人気温泉地ランキング上位3温泉地 「もう一度行きたい理由」時系列変化分析

箱根温泉 もう一度行きたい温泉地の主な選択理由(5つまで複数回答)



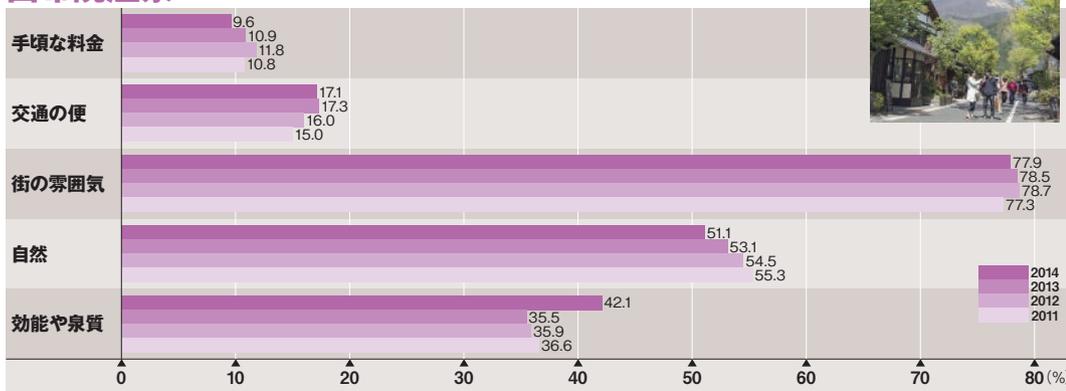
最も高いのは「交通の便」。次いで「自然」、「街の雰囲気」、「効能や泉質」、「手頃な料金」。いずれの項目も数値が高く、バランス型と言える。ただし時系列で数値の変化を見ると、「交通の便」「街の雰囲気」「手頃な料金」は減少傾向にあり、逆に上昇しているのが「効能や泉質」。調査開始以来1位に君臨する箱根でも、選ばれる理由には少しずつ変化が起きてきているようだ。

草津温泉 もう一度行きたい温泉地の主な選択理由(5つまで複数回答)



昨年までは「街の雰囲気」がトップだったのに対し、今年は「効能や泉質」が66%で入れ替わる形に。「街の雰囲気」は今年大きく後退したが依然として高く、多くの人が温泉街や、その中心にある湯畑をイメージしているだろう。泉質で推す草津にとって湯畑はうってつけのシンボル。「泉質主義」をキーワードに一貫したプロモーションは旅行者から見ても受け入れられやすいはず。

由布院温泉 もう一度行きたい温泉地の主な選択理由(5つまで複数回答)



8割の人が選択理由として「街の雰囲気」を挙げている。次いで「自然」と続くが、これは地元の努力で豊かな田園風景や環境を損なうような開発を控えてきた成果が実際に旅行者にも評価されているのだろう。さらに続いて「効能や泉質」が3位に。もともと湯量豊富な由布院温泉だが、ここでも「効能や泉質」を選択理由に挙げる人が増えており、昨年から比べて大きく7ポイント上昇している。

もと泉質に特徴のある当該温泉地ではこの選択率が高かったものの、過去トップだった「街の雰囲気」が2014年は大きく減少し、入れ替わる形に。3位の由布院温泉でも「効能や泉質」を挙げる人が増えている。

このように見ていくと、この数年で温泉地に求められる要素には微妙に変化が起きており、特に上位温泉地では「効能や泉質」への比重が大きくなってきているようだ。ICT化が進み、個人がインターネットなどで情報を自ら検索し、ある程度「真実」の情報を得られる今、雰囲気や観光的な要素よりも本物感、手頃に便利に行けなくても温泉地としての特徴が優れていればそこに行きたい、という旅行者の気持ちが見取れる。例えば資源が豊富でバランス型の「箱根温泉」だが、手頃さよりも、点在する温泉をまとめて見せたり、そのシンボルとなるようなデジタルを効果的に出していく、などのマーケティング戦略が考えられる。市場の動きを読み取り、エリアの強みや資源を整理し、どこで勝負をするか。「選ばれる温泉地」になるためのポートフォリオをぜひ描いていただきたい。